

## 伝統的な吟詠にのせて 優しく華やかに舞う

「吟剣詩舞を舞台の上で舞うことで、子どもたちには、自分に自信を付け人間として最も大切な礼節を身に付けてほしい」と語るのは、大野流剣詩舞会家元の大野豊寿さん。吟剣詩舞とは、吟詠に合わ

せて舞う伝統芸能で、扇子と舞う「詩舞」と刀剣などを用いる「剣舞」がある。曲調や衣装などによって振り付けや動きを変化させ、吟詠の世界観を表現。詩舞は扇をしなやかに動かし優しく舞い、剣舞

は刀や槍を勇ましく振るって凛々(りり)しく舞う。同会は甲佐町文化協会の加盟団体で、会員は現在約30人。幼児から80代まで年齢層も幅広く、大野さんの指導の下、詩の情緒を表現する稽古(けいこ)に励んでいる。「舞に大切な足の運びや扇の開き方などの基礎や、吟詠の意味について分かりやすく伝えること大事にしていま

す」と大野さん。「吟詠の詩を舞で表現することで精神も鍛えられ、人前に立つことで心の成長にもつながる」と、子どもたちの未来を思う。今月24日(月)県立劇場で開催される「子ども吟剣詩舞道祭」(熊本県吟剣詩舞道総連盟主催)に出演する井芹英麻さん(山出区・写真後列左)、井芹麻風さん(同区・後列中)、森野かりんさん(下田口区・後列右)、岡本莉奈ちゃん(古閑区・前列右)。井芹英麻さんは「家元の舞を見て興味をもったのが、吟剣詩舞を始めたきっかけです。最初は舞台上立つことは恥ずかしかつたけれど、今では舞が楽しみにになりました」と笑顔を見せる。発表会では、漢詩「富士山」の吟詠に合わせた優美な舞を披露する子どもたち。「私たちの息の合った演舞を、たくさんの人に見てもらいたい」と抱負を語る。9日(日)開催の甲佐町産業文化祭でも舞を披露する。「子どもたちの可愛らしい詩舞の世界を、ぜひ見てください」と大野さんはほほえむ。



大野流吟剣詩舞会  
おのりのりゅう ぎんけんしぶかい

〔甲佐町文化協会〕

井芹英麻さん(山出区・後列左)、井芹麻風さん(同区・後列中)、森野かりんさん(下田口区・後列右)、岡本莉奈ちゃん(古閑区・前列右)